

苦しみをしっかり苦しむ

(028)

願いをもって浄土から来たんだという自覚がもてれば、それは浄土に往生したのと同じことです。

だから親鸞は、そのことを、

……「還相廻向」げんそうえこう……

と言っています。向こう岸にいきつ放しではなく、必ず帰ってきて、しっかり生きるんだよ、ということ強調するわけです。

お釈迦さまといえども、つらさ、寂しさ、老いの苦しみはなくならなかったのです。

お釈迦さまは晩年、「ここに舍利弗がいないのは寂しい」と言いました。また、托鉢をしているとき「この身体はもうぼろぼろだ。身体がつらい」とも言っています。

江戸時代の高僧、白隠禅師に仕えて禅を学んだ、おさつばあさんという人がいました。

よく修行して、ついに免許皆伝の印可を受けたという、悟りを開いたおばあさんなのです。

そのおばあさんの孫娘が死んだとき、わんわん泣きました。それを見ていたみんなが、「おさつさん、あんたは禅の悟りを開いているのに、どうして泣くのですか」と言うと、「やかましい！ わしが泣いているのは、おまえらの涙とはちがうんだ。わしは真珠の涙をこぼしているんだ」

そう言ったということです。

わたしたちは、真珠の涙をこぼせるようになったらいいですね。

泣くときは、思いきり泣けばいいのです。

苦しみが楽になったり、つらいことが楽になったりするのではなく、ありません。

苦しみをしっかり苦しむ。つらいことをしっかりと、つらいと受けとめる。それでいいのだと思います。

わたしの南無阿弥陀仏 佼成出版社 ひろさちや